

<学校の教育目標>

未来を拓く子

「たくましさ」と「やさしさ」があふれる学校

児童の実態

- 仲間と学び合う中で、既習の学習と結びつけようとするなど、課題解決のための見通しが持てるようになってきた。
- 自分の考えを、具体物や図、数直線、式などを指し示しながら根拠を明らかにして話そうとする意識が高まってきた。
- 一人一台のタブレットを用いて、ICT教材やドリルソフトが学習の定着に有効的に活用されている。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着に個人差があり、前学年までの学習の積み残しのある児童がいる。
- 問題解決するために、筋道立てて考え、その過程を分かりやすく表現する力が十分とは言えない。
- 問題場面を想起する力が弱いため、学んだことを生活や学習につなげることのできない児童が多い。

令和5年度研究テーマ

「できた・わかった・使える」と言える子の育成  
～数学的に考える資質・能力の育成を目指して～

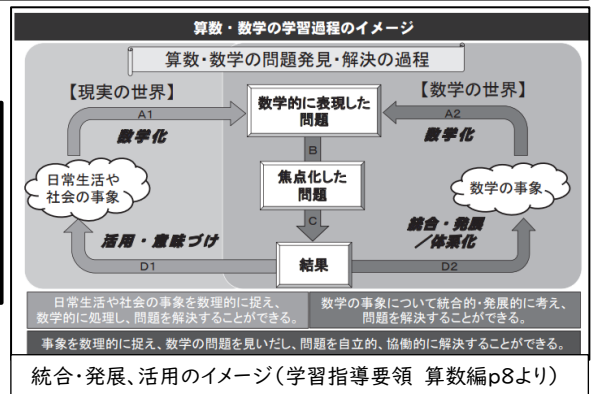
願う児童の姿

- ・基礎的・基本的な知識、技能が定着し、「できた!わかった!使える!」と言える。
- ・見通しをもち、筋道を立てて考え、説明することができる。
- ・言葉や図、式などをつないで、指し示しながら根拠を明らかにして話すことができる。
- ・共通点、相違点を見いだすことができる。
- ・単に問題を解決することに終わらず、学習したことを、既習事項と関連付けて考えたり、新たな疑問を見いだしたりすることができる。
- ・算数の楽しさ、よさ、魅力に気付く。

研究仮説

焦点化して設定した課題を解決するために、仲間と伝え合う活動を行い、学んだことを統合・発展、活用するよう授業終末を工夫・改善すれば、数学的に考える資質・能力を育成することができる。

研究内容



数学的に考える資質・能力を育成する授業づくり

(1) 焦点化した課題の設定

- 確かな見通しを持たせる活動の具体化
- ・授業の初めに既習の学習を確実に引き出す。
- ・「どのような方法」で「何をはっきりさせるのか」明確な学習の見通しを持たせる。

(2) 数学的に表現し、伝え合う活動の設定

- 根拠を明らかにして筋道を立てて説明する活動の具体化
- ・具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図り、問題解決する活動を充実させる。
- ・考えた過程をノートにわかりやすく表現し、指し示して説明させる。

(3) 授業終末の工夫改善

- 統合・発展、活用における学習活動の具体化
- ・授業終末に十分な時間を設定し、その学習活動を明らかにする。
- ・一単元に一時間程度、「既習の内容と統合」、「未習の内容へつなぐ発展」、「日常生活への活用」のいずれかを意図的に位置づける。